

青果物の生産履歴情報の効率的な収集・伝達・提供システムの開発

1 中核機関・研究総括者

(独)農業技術研究機構中央農業総合研究センター
佐藤 和憲

2 研究期間

2003～2005年度(3年間)

3 研究目的

青果物について、消費者の安全・安心を確保するために必要な情報や、流通業者が商品管理上必要な情報を特定するとともに、生産履歴情報を携帯端末等から効率的に入力できる現場入力システム、及び、生産履歴情報と青果物をリンクさせるシステムの開発により、消費者に生産履歴情報を迅速かつ的確に提供できるシステムの開発を行う。

4 研究内容及び実施体制

消費・流通ニーズに基づいた生産・流通履歴情報の体系化((独)農業技術研究機構中央農業総合研究センター)

アンケート調査や聴取調査を用いて、消費者、流通業者が必要な生産履歴情報を体系化する。

生産段階における生産履歴情報収集システムの開発((独)農業技術研究機構中央農業総合研究センター)

フィールドサーバーや携帯端末を用いて、生産履歴データを省力的に入力できるシステムを開発する。

流通段階における生産履歴情報伝達システムの開発((株)日立製作所、大日本印刷(株))

パッケージやコンテナ等にICチップを貼付し、そのID番号等により青果物を識別可能にするシステムを開発する。

消費者・流通業者に対する履歴情報提供システムの開発と実証試験((独)農業技術研究機構中央農業総合研究センター、早稲田大学、埼玉県農林総合研究センター、群馬県農業技術センター、静岡県柑橘試験場)

青果物の生産履歴情報を消費者等に提供するシステムを開発するとともに、実証試験を実施して、システムの実用化を図る。

5 目標とする成果

生産履歴情報の収集・管理にかかる労力が大幅に軽減されるとともに、青果物の特徴を正確に消費者に伝達できるシステムが確立される。これにより、消費者に安全・安心を提供できるとともに、商品管理等が効率化され、トレーサビリティシステムの普及が促進される。